

Ⅱ. 平成 28、29 年の罹患概要

1. がんの罹患の集計について

(1) 集計の期間

平成 28 年：診断日が平成 28 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までの 1 年間

平成 29 年：診断日が平成 29 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までの 1 年間

(2) 集計の対象

法によって定められた届出対象となる新生物

(がん登録等の推進に関する法律施行令第 1 条)

(3) 精度指標

	H28 年	H29 年
DC I	3.8%	3.3%
DC O	2.3%	1.9%
MI 比	0.37	0.38

2. 富山県のがんの罹患の概要

富山県におけるがんの罹患数は、平成 28 年は男性 5,268 件、女性 4,080 件の合計 9,350 件であり、平成 29 年は男性 5,428 件、女性 4,023 件の合計 9,451 件であった。平成 28 年および 29 年ともに、男性でもっとも多いがんは、胃がんであり、次いで、大腸（結腸及び直腸）、肺、前立腺、膵臓の順となっている。女性では、最も多いがんは乳がんであり、次いで、大腸（結腸及び直腸）、胃、肺、子宮の順となっている（図 1）。

図 1-1 部位内訳 （H28 年、表 1-A から作成）

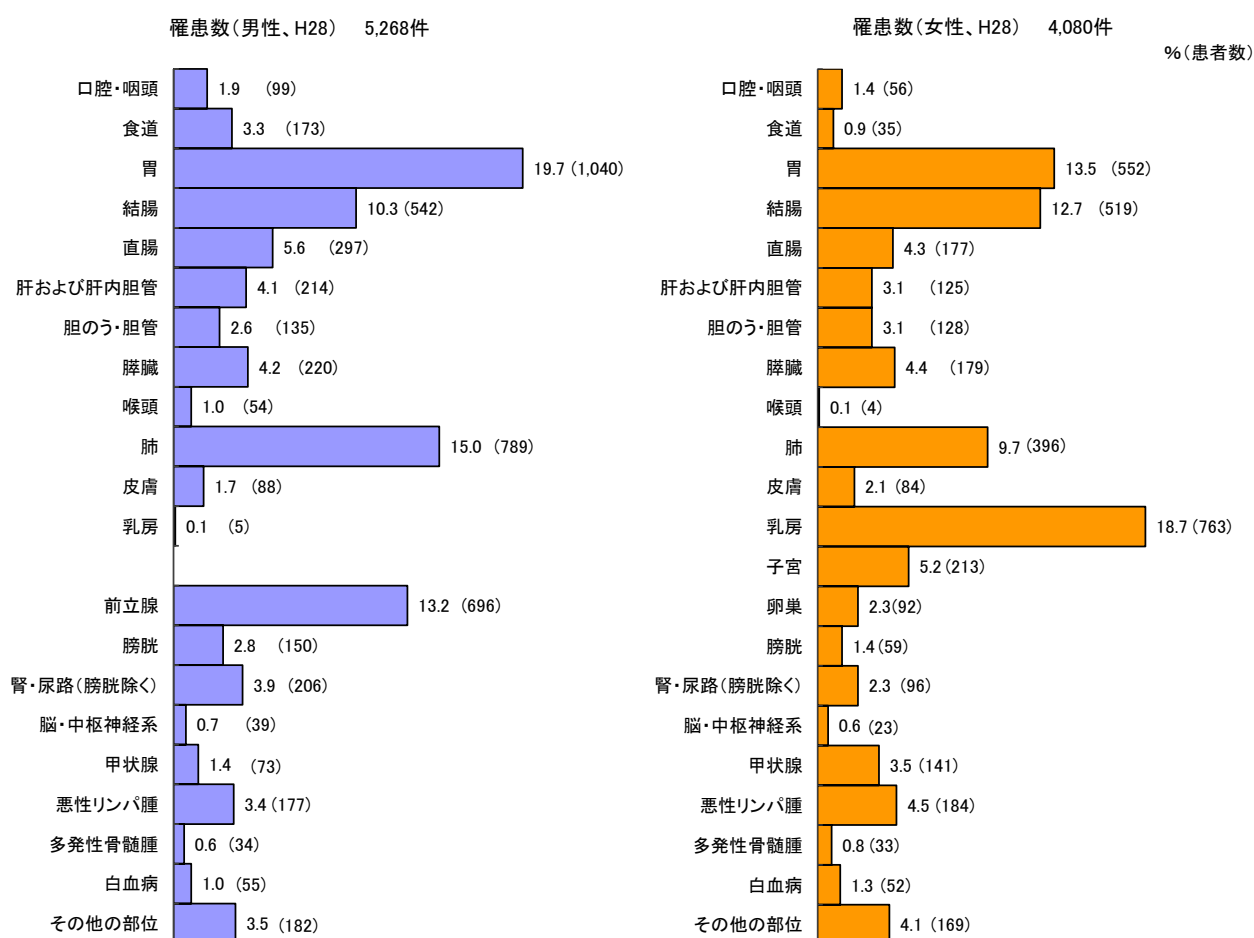
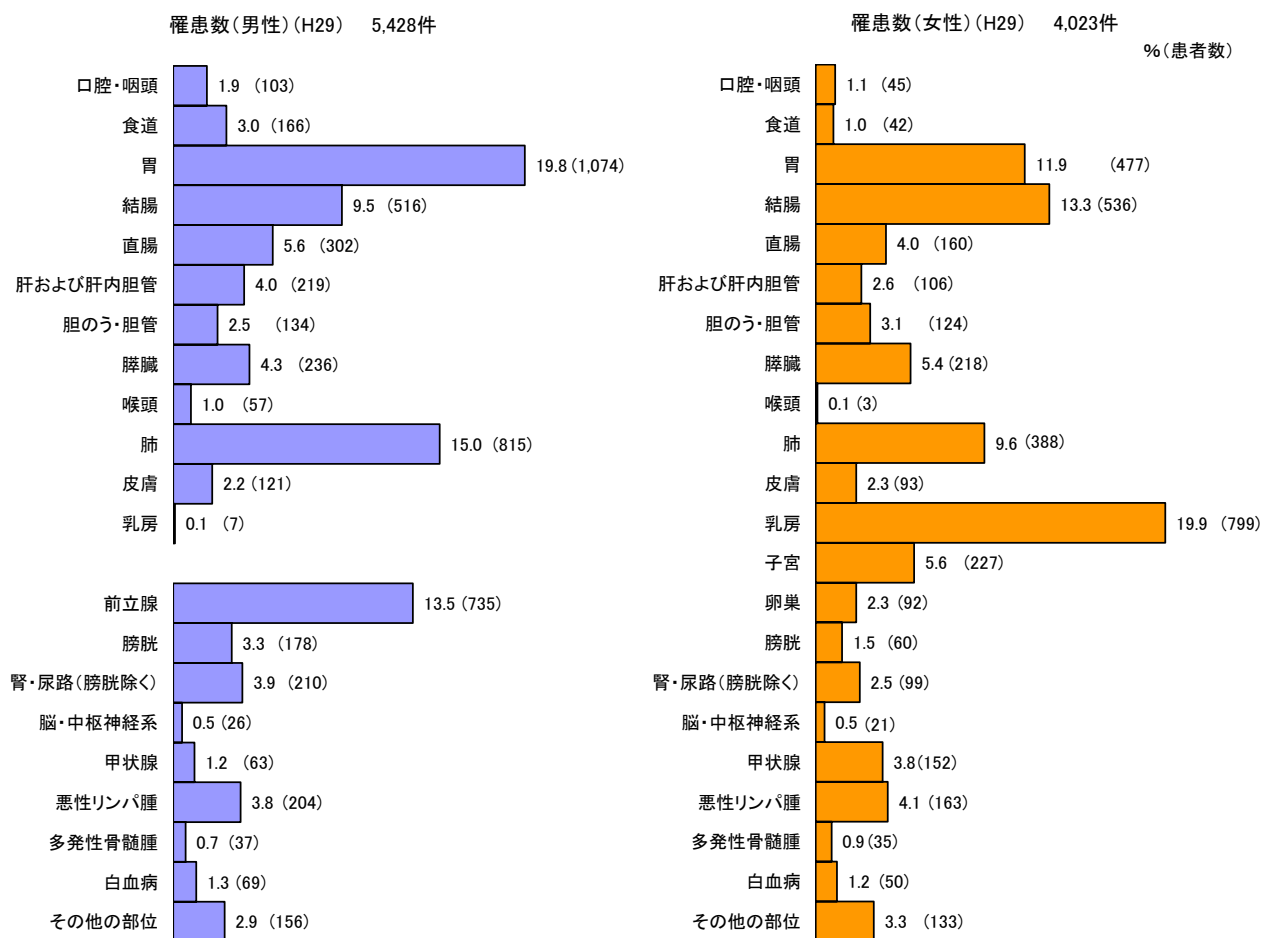


図 1-2 部位内訳 (H29 年、表 1-A から作成)



3. 年齢別に見たがんの罹患

平成 28 年および 29 年に新たに診断されたがんについて年齢別にみると、男女とも 75 歳以上が最も多く、次いで 65 歳～74 歳が多く、男性は 3/4 以上を、女性は 2/3 以上を 65 歳以上が占めている（図 2）。

15 歳～39 歳、40 歳～64 歳の年齢階級では男性よりも女性の罹患数が多く、その年齢階級の女性の部位別の内訳では、乳がんの占める割合が大きい。男性は 40 歳以上で胃、大腸（結腸・直腸）、肺がんが多いが、65 歳以上では前立腺がんも多い（図 3）。

年齢階級別罹患率は、ほとんどの部位のがんにおいて、年齢が高くなるにつれて増加する傾向にある。男性のがんは 55 歳以上で罹患率が高くなる傾向にあり、特に胃、結腸・直腸がんは 60 歳以上から急激に増加することがわかる。女性では乳がんが 35 歳以上で急激に増加し、罹患率が高い状態は 70 歳代まで続いていた。子宮がんは 20 歳代から増加し、60 歳以上では減少する傾向にあった（図 4）。

図 2-1 年齢内訳 (%) (H28 年、表 2-A から作成)

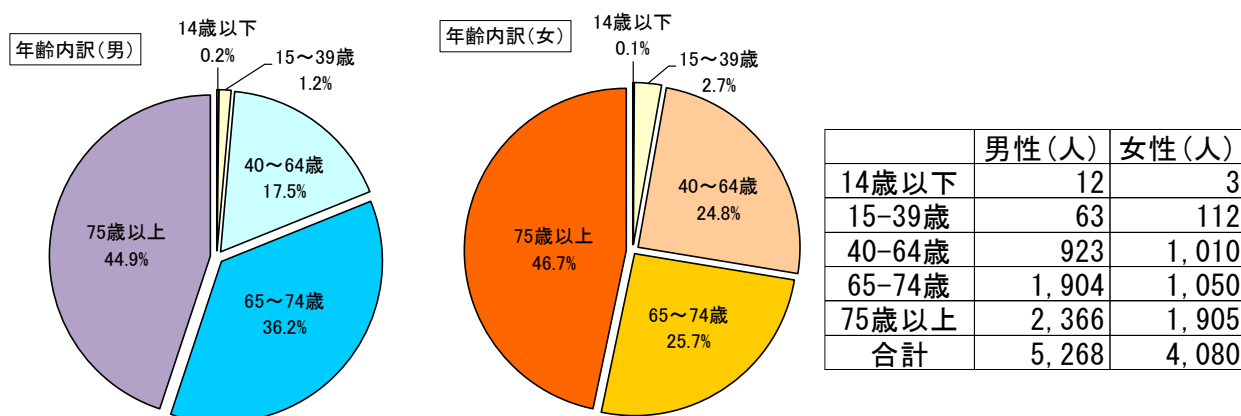


図 2-2 年齢内訳 (%) (H29 年、表 2-A から作成)

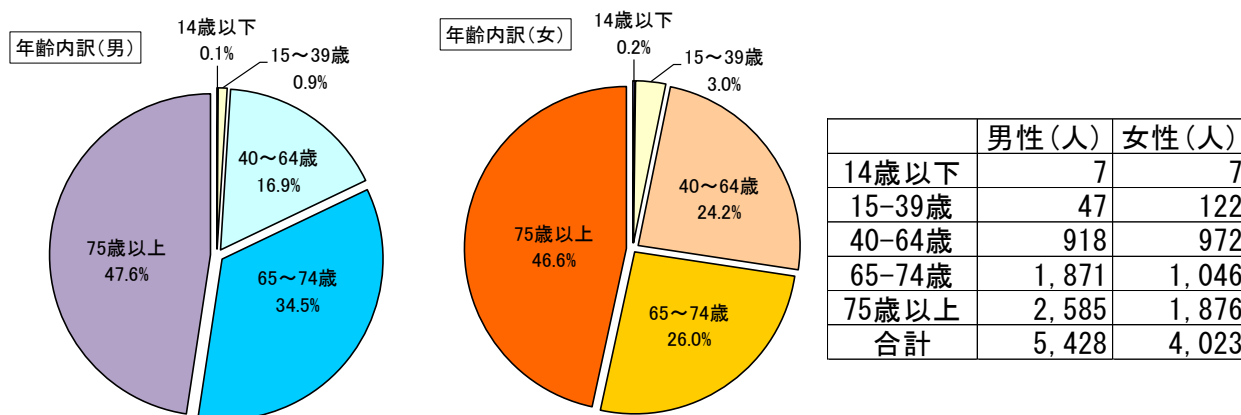
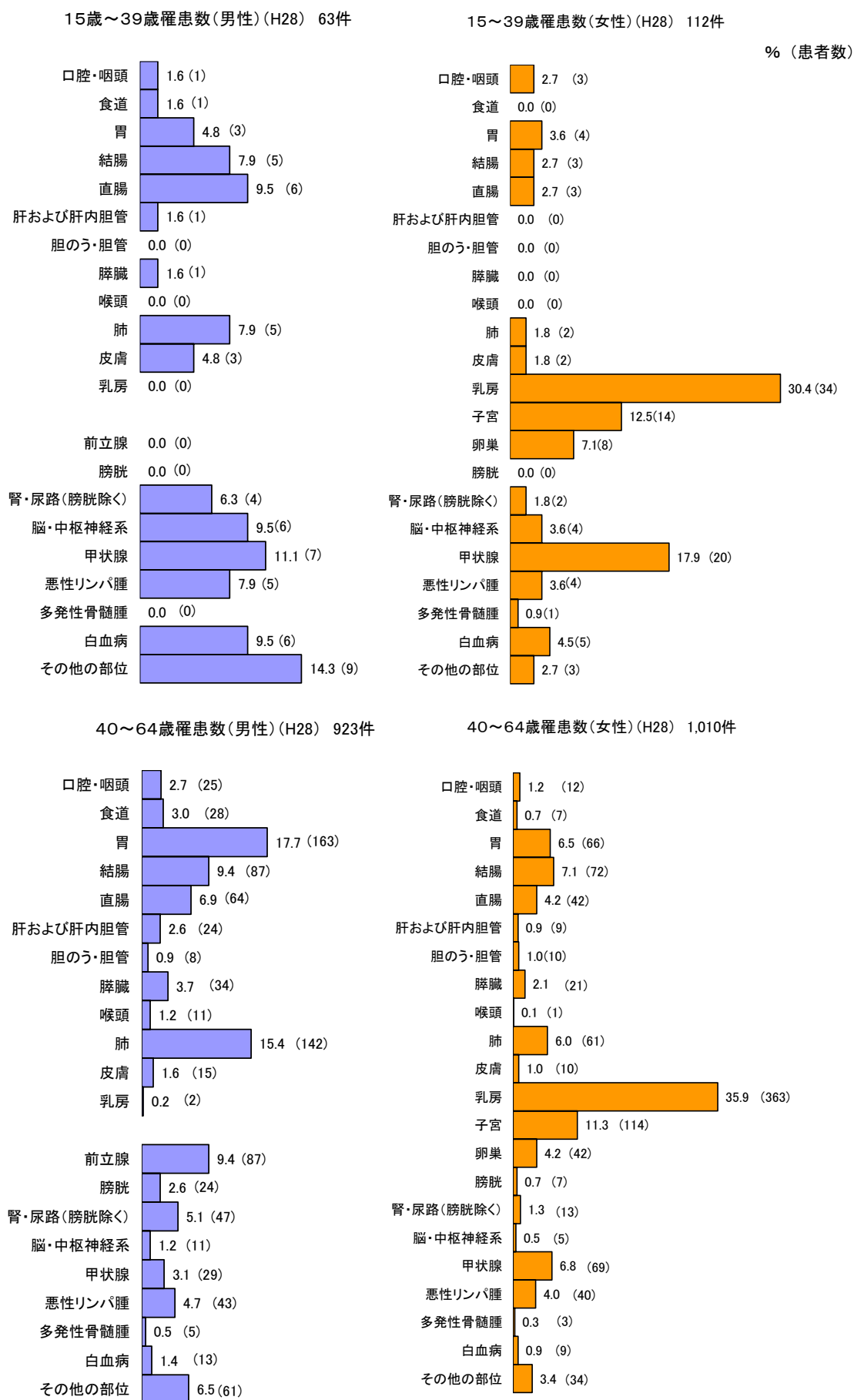
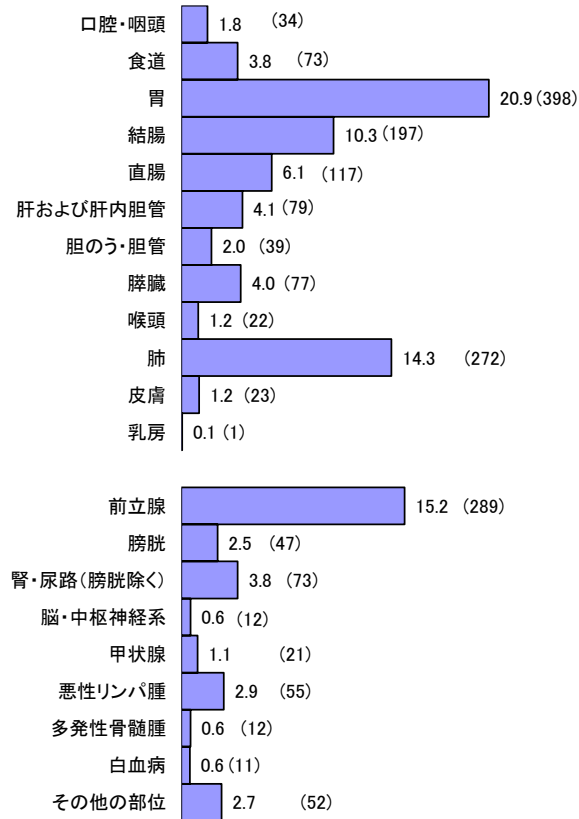


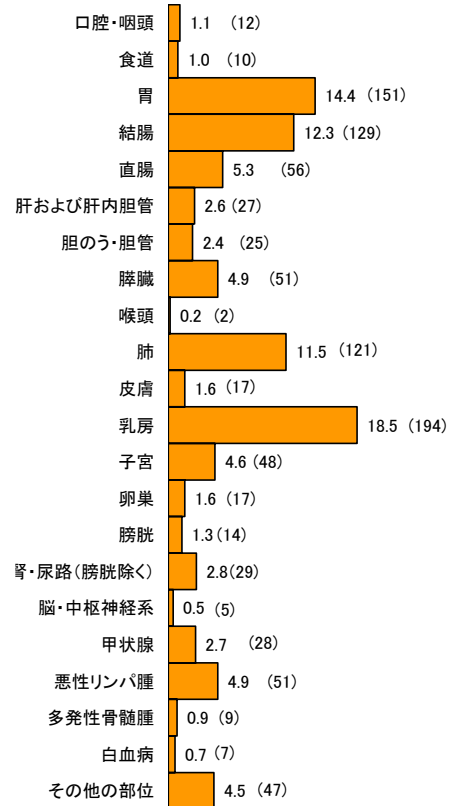
図 3-1 年齢別部位内訳 (%) (H28 年、表 2-A から作成)



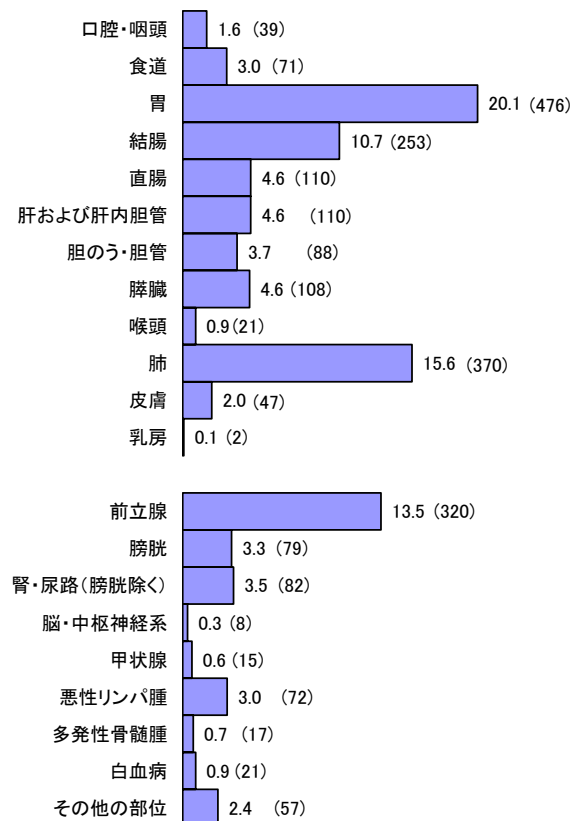
65～74歳罹患数(男性)(H28) 1,904件



65～74歳罹患数(女性)(H28) 1,050件



75歳以上罹患数(男性)(H28) 2,366件



75歳以上罹患数(女性)(H28) 1,905件

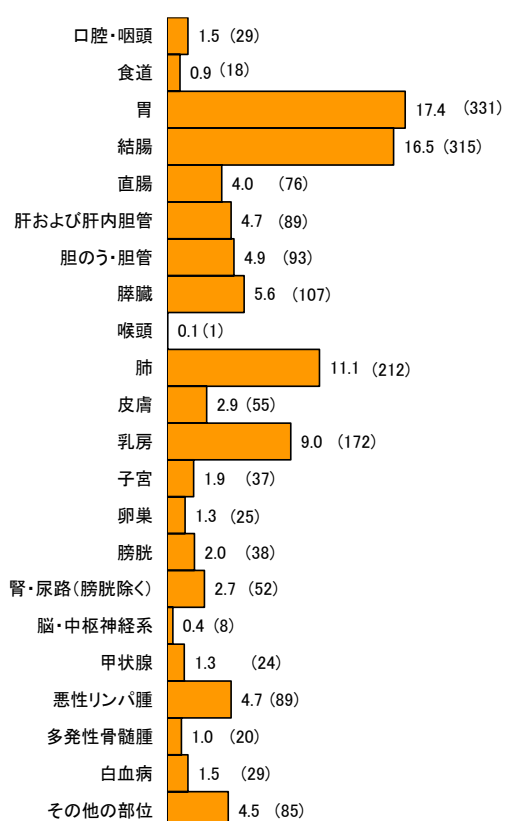
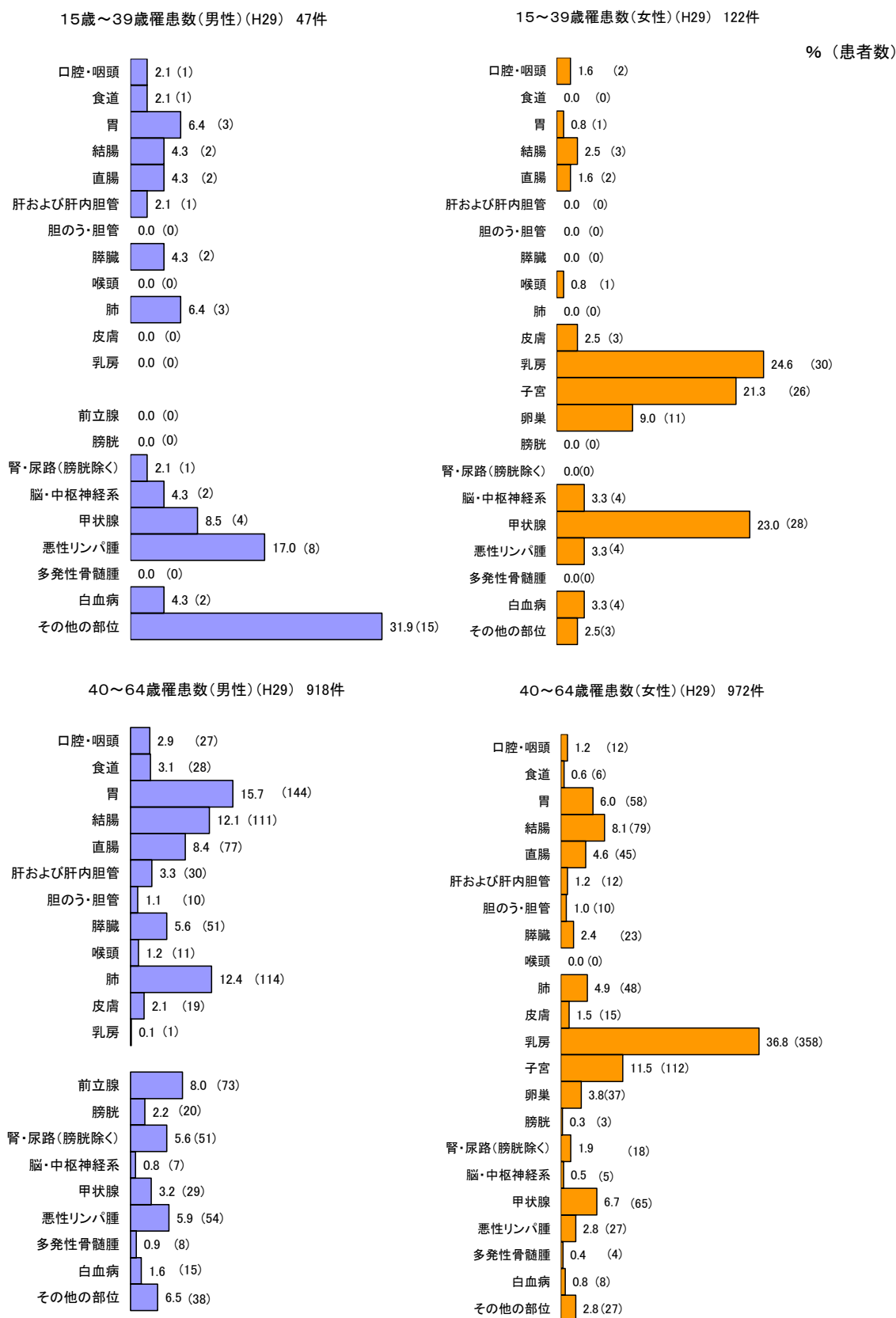
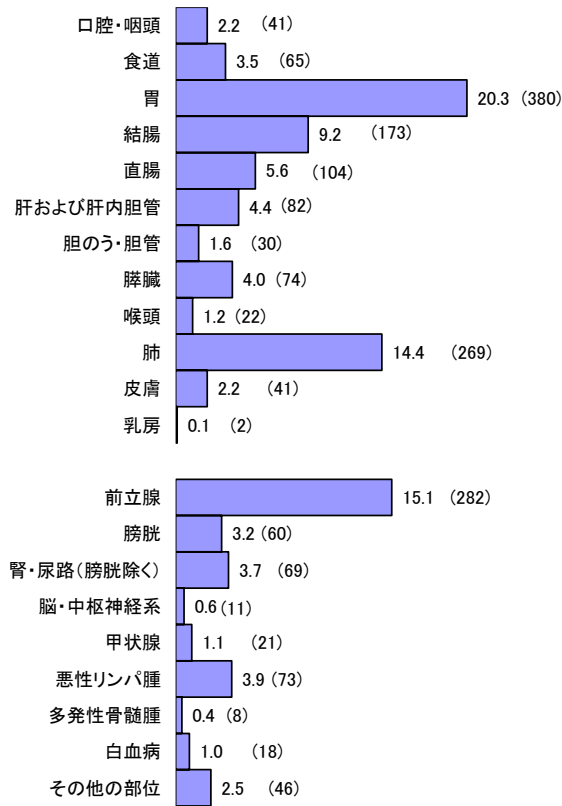


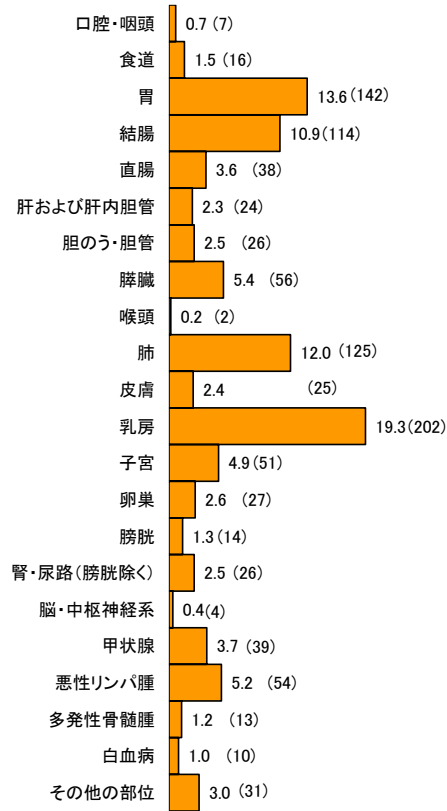
図 3-2 年齢別部位内訳 (%) (H29 年、表 2-A から作成)



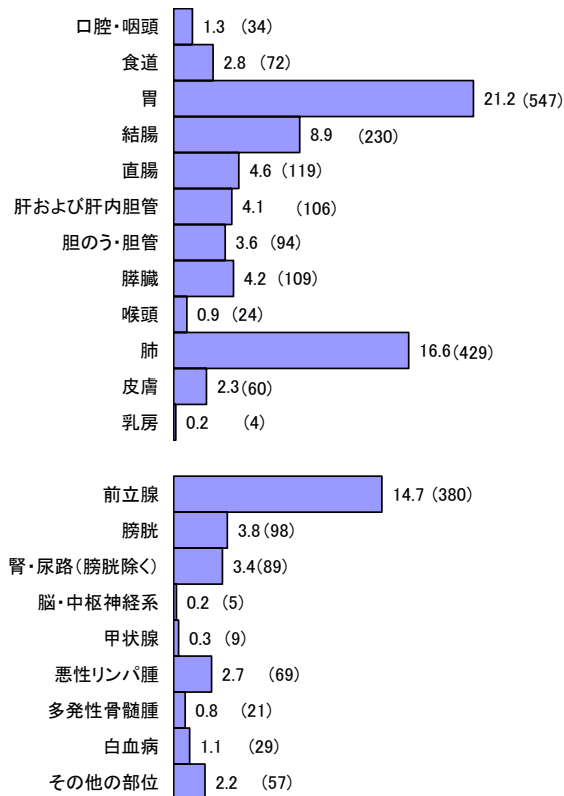
65～74歳罹患数(男性)(H29) 1,871件



65～74歳罹患数(女性)(H29) 1,046件



75歳以上罹患数(男性)(H29) 2,585件



75歳以上罹患数(女性)(H29) 1,876件

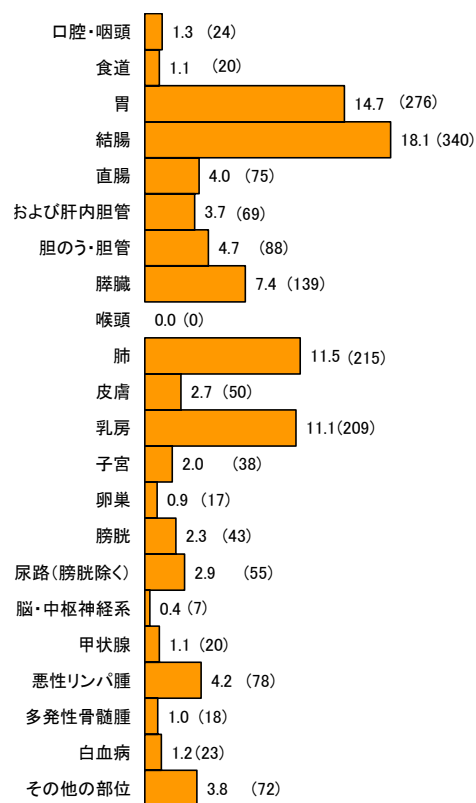
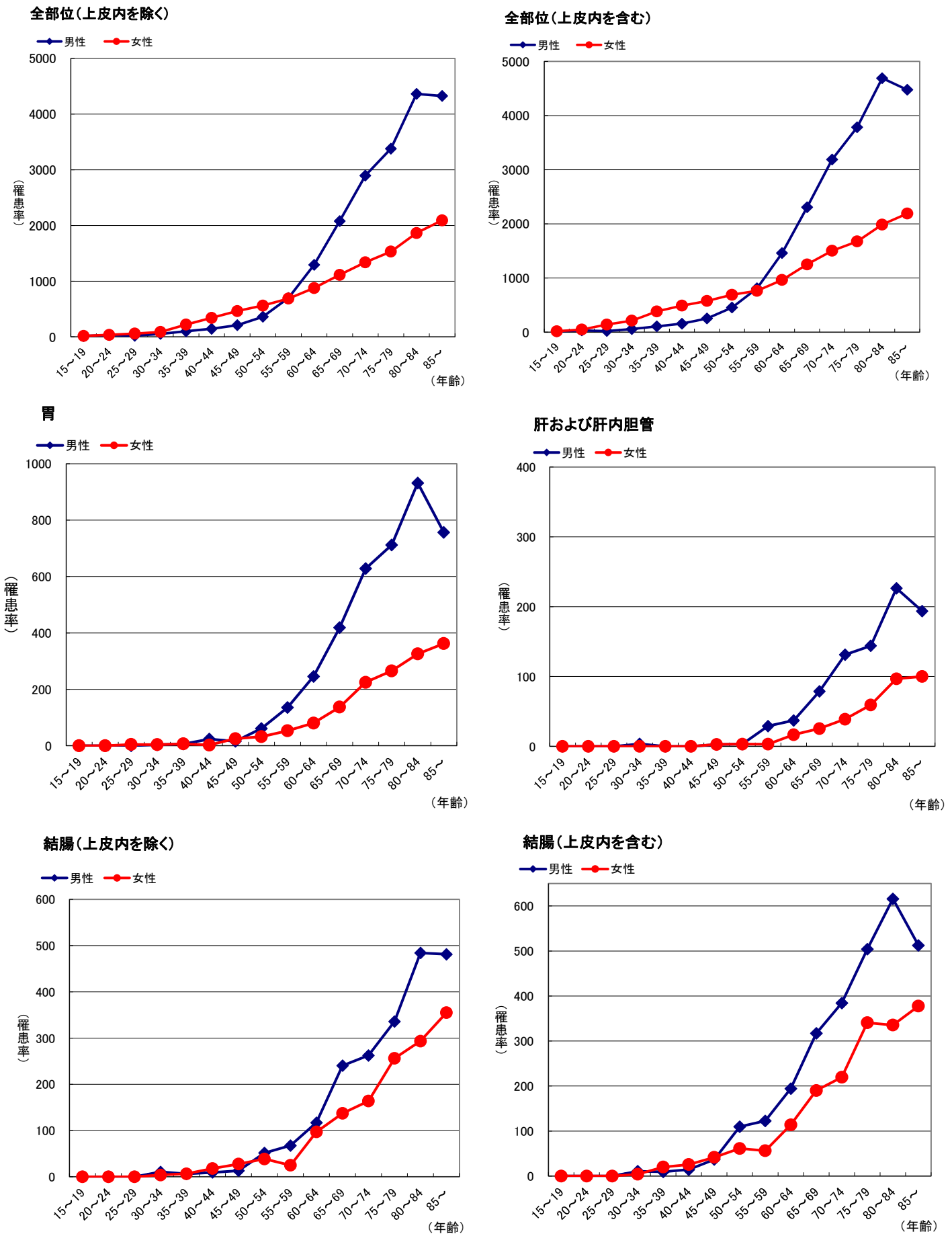
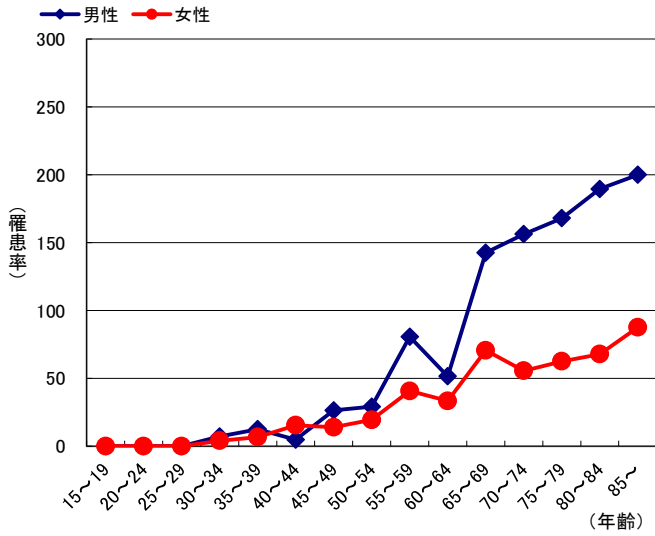


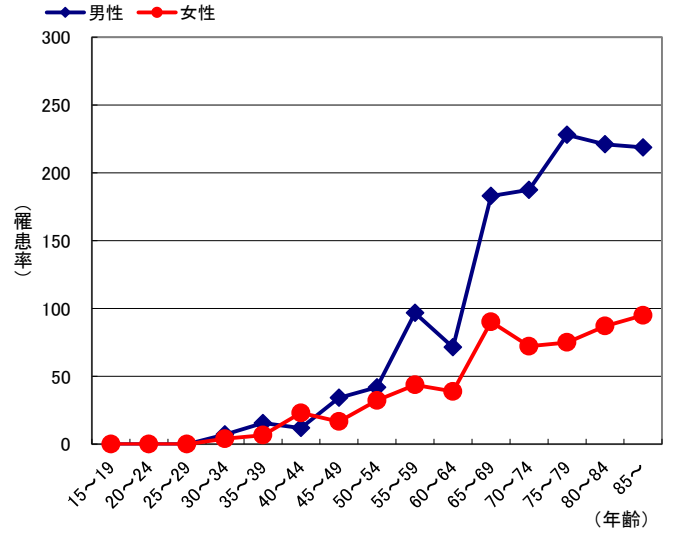
図 4-1 部位別年齢階級別罹患率：人口 10 万対（H28 年、表 3-2-A、B から作成）



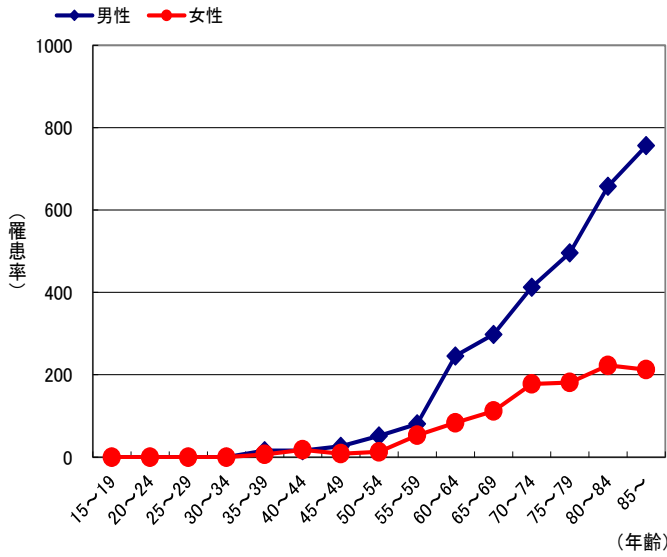
直腸(上皮内を除く)



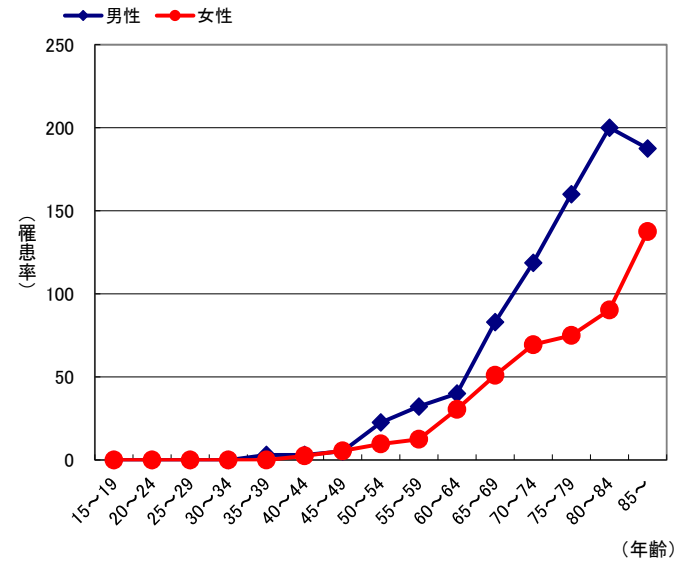
直腸(上皮内がんを含む)



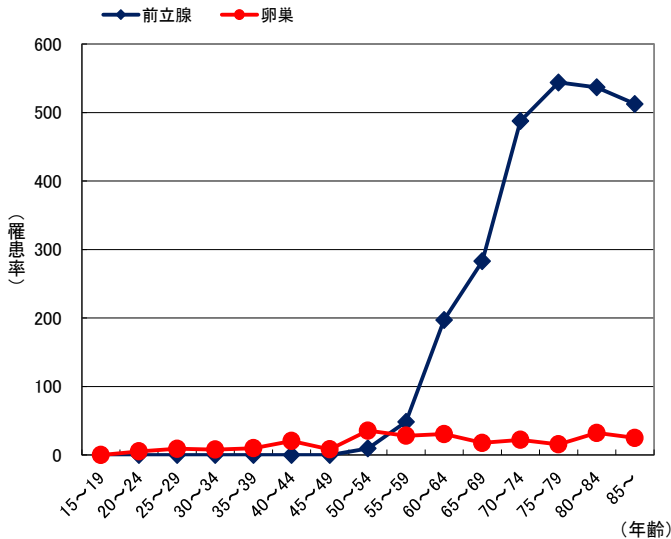
肺



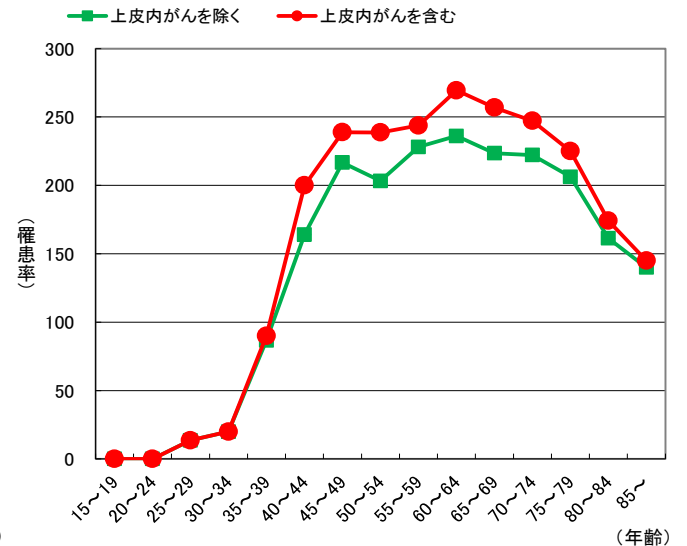
脾臓



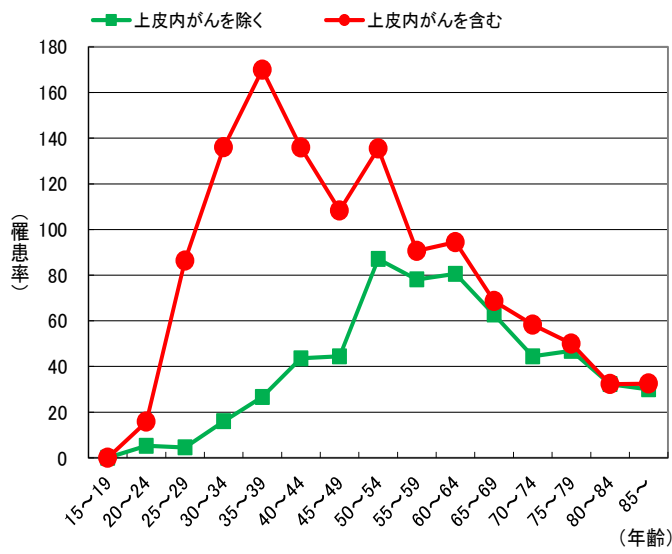
前立腺・卵巣



乳房(女性)



子宮(女性)



子宮頸部

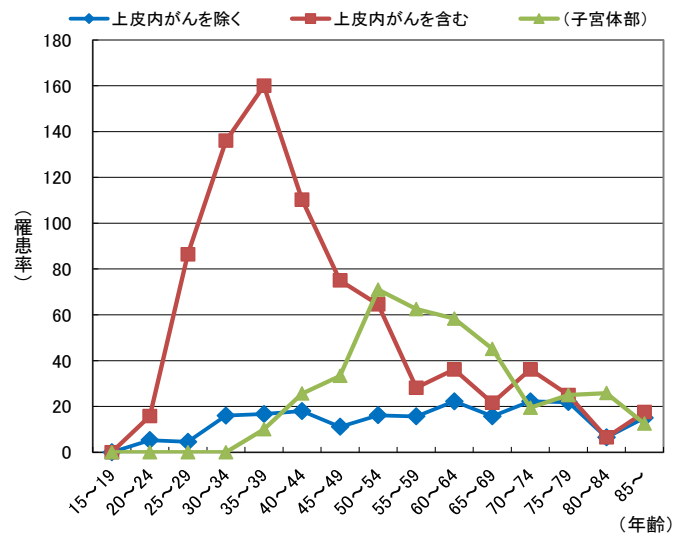
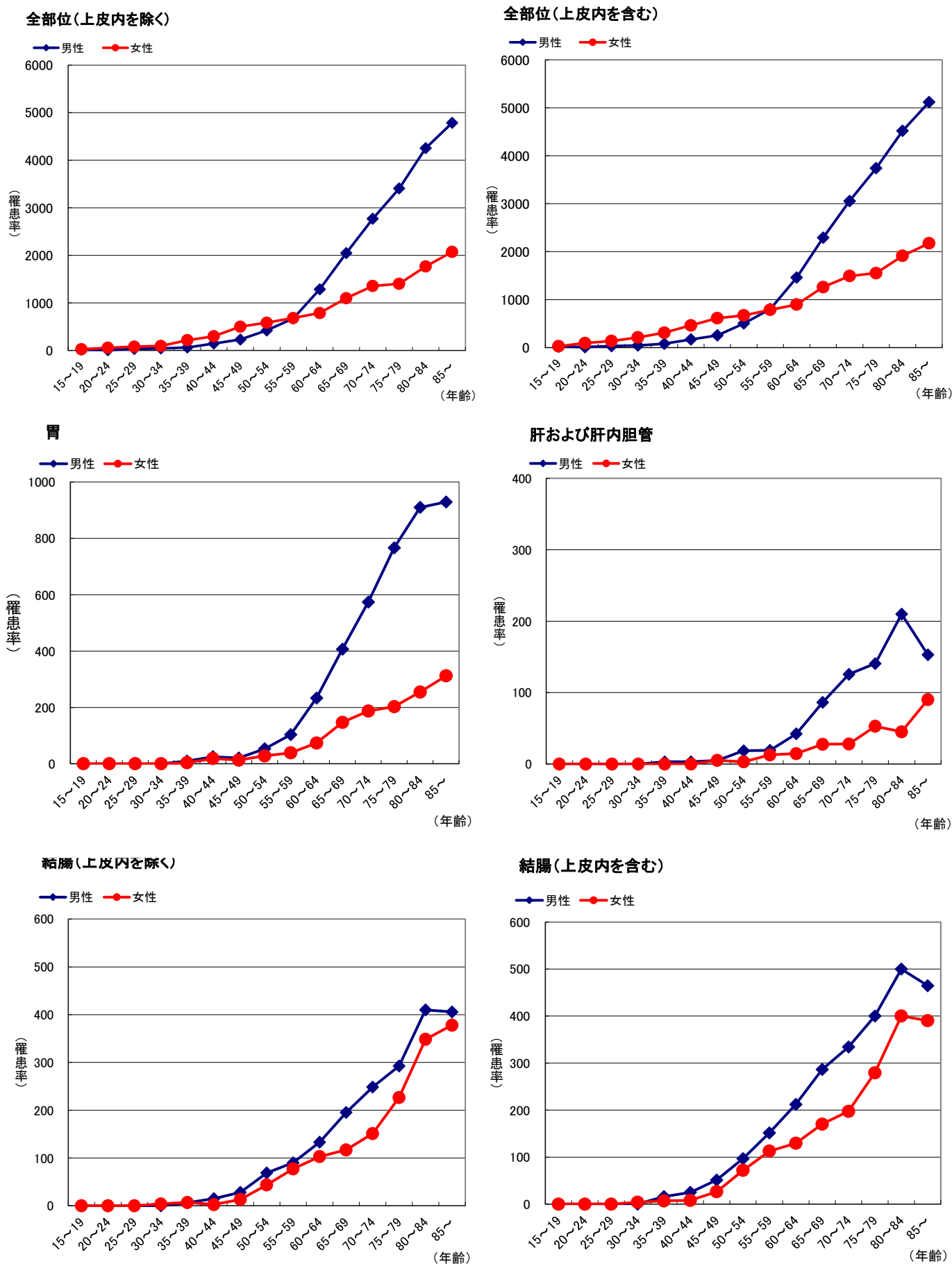
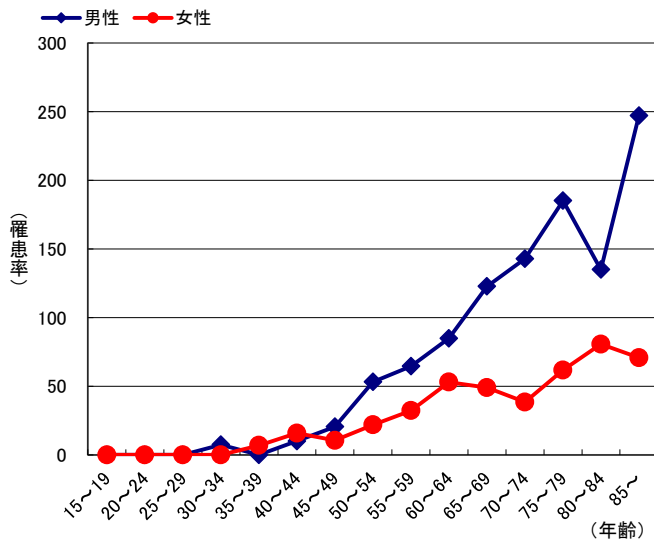


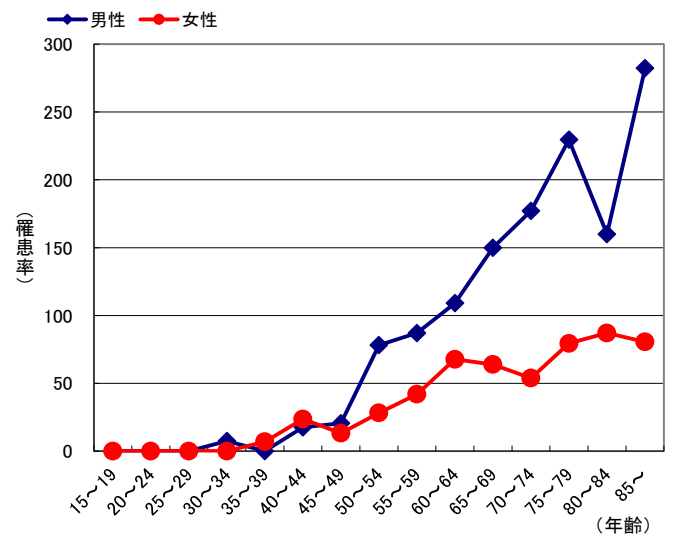
図 4-2 部位別年齢階級別罹患率：人口 10 万対（H29 年、表 3-2-A、B から作成）



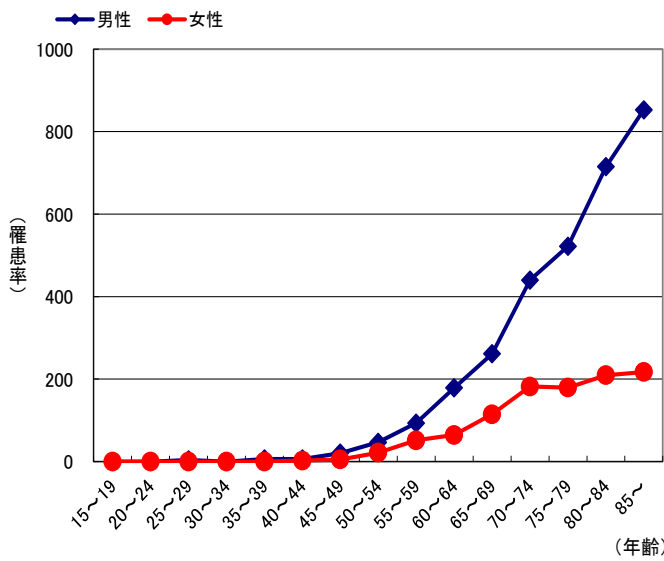
直腸(上皮内を除く)



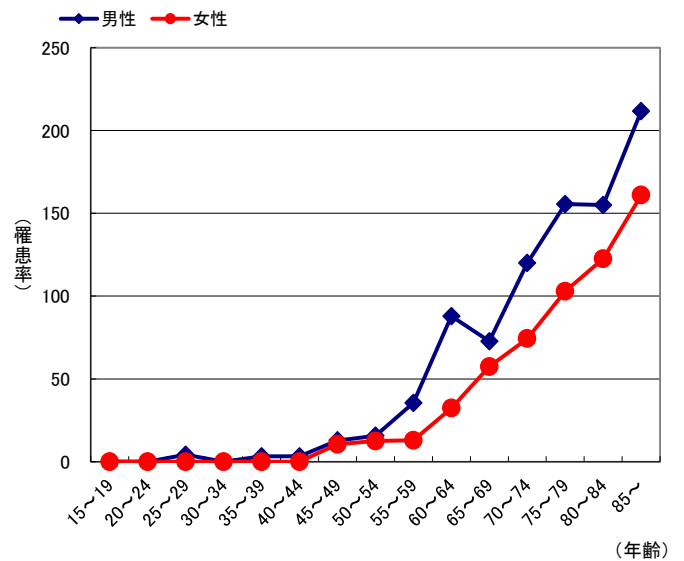
直腸(上皮内がんを含む)



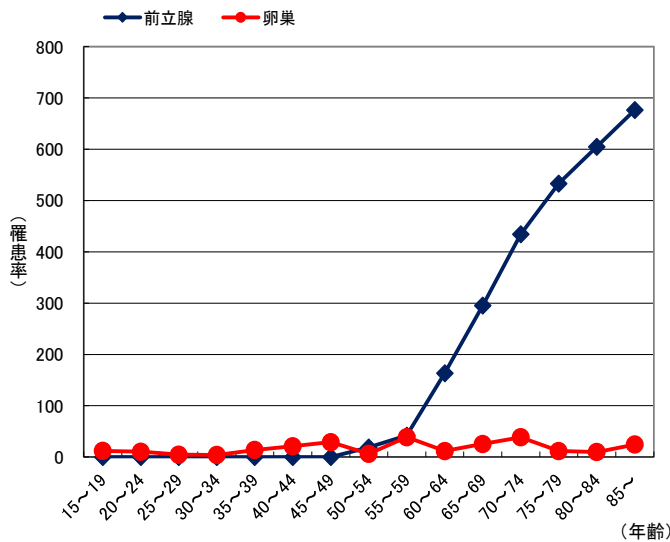
肺



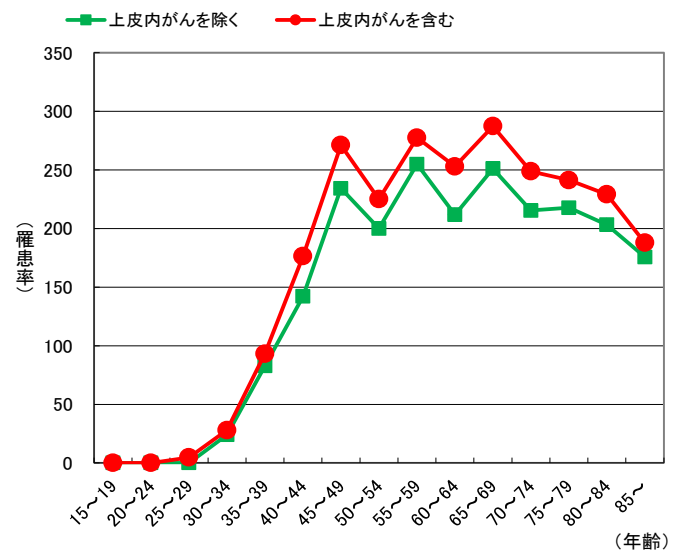
膀胱



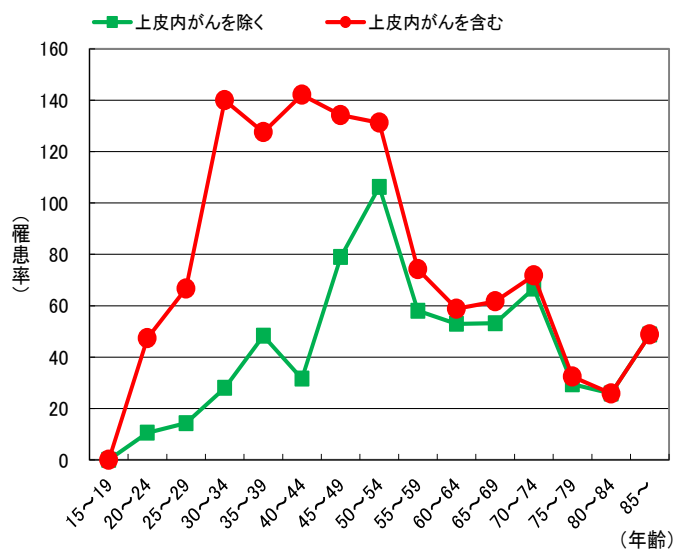
前立腺・卵巣



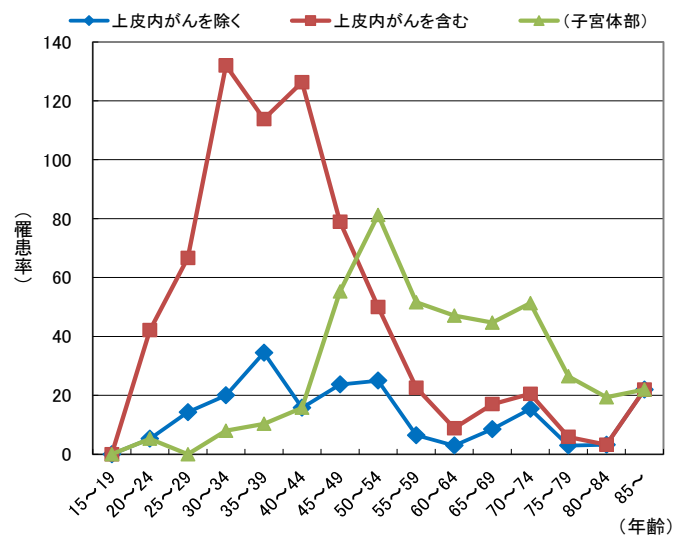
乳房(女性)



子宮(女性)



子宮頸部

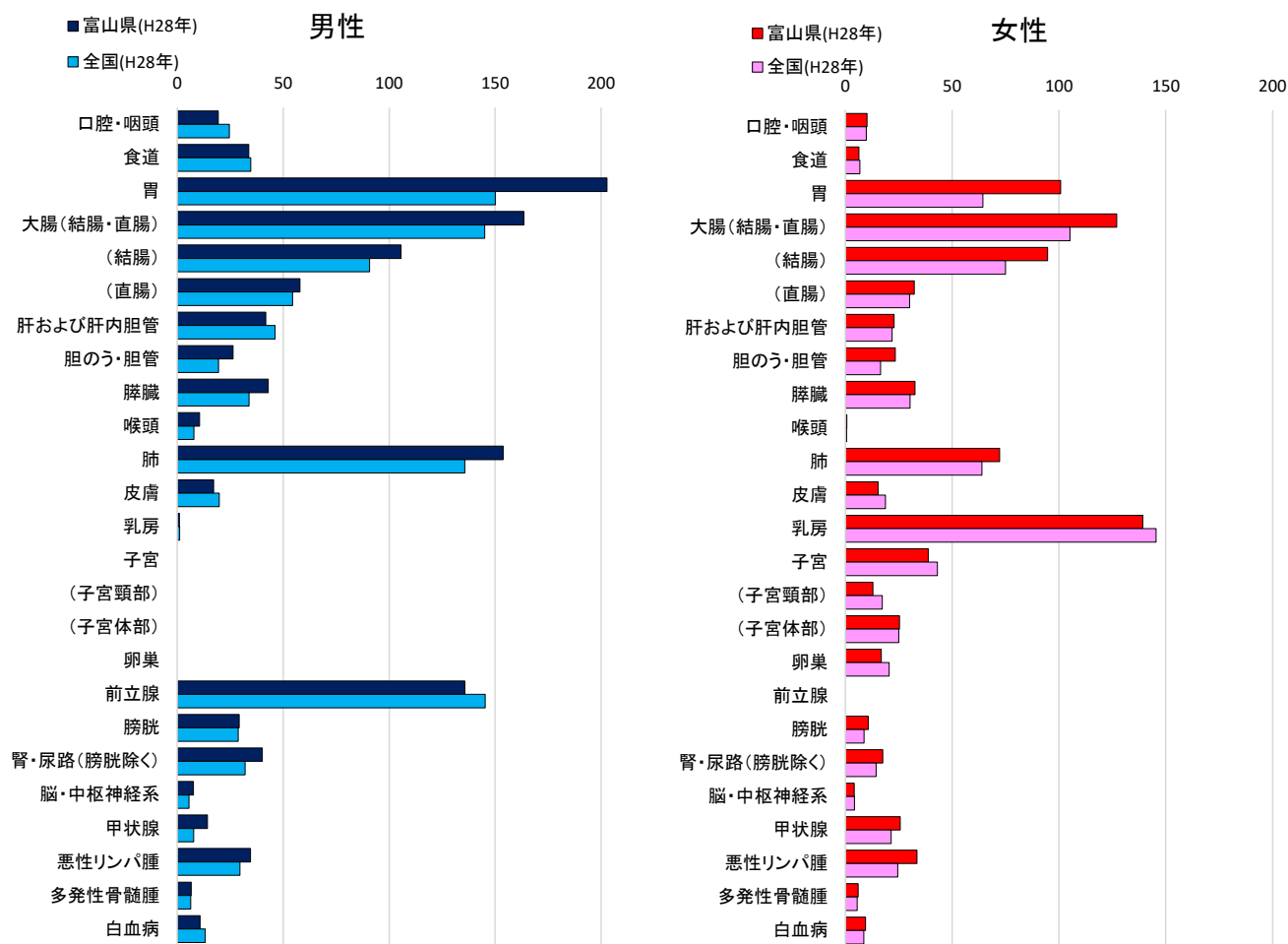


4. 富山県のがんの罹患の特徴

平成 28 年および 29 年の部位別の粗罹患率と年齢調整罹患率について、各年の厚生労働省 全国がん登録 罹患数・率報告において公表されている全国値との比較を示す。

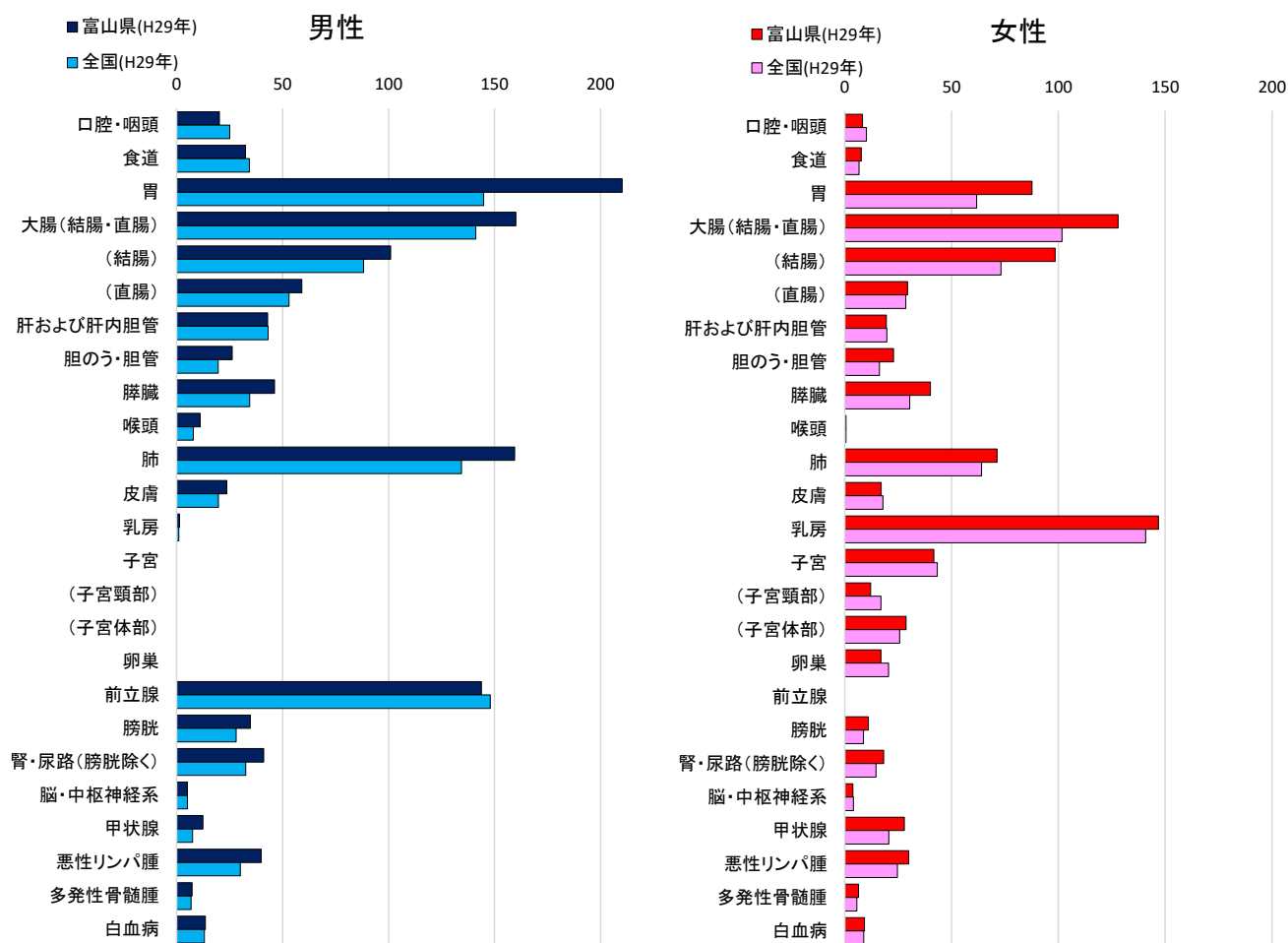
粗罹患率は、男女ともに胃、大腸（結腸・直腸）、肺、腎・尿路、甲状腺、悪性リンパ腫が全国値よりも高い。一方、男性の前立腺は全国よりも低い（図 5）。年齢調整罹患率は、胃、甲状腺、悪性リンパ腫が全国値よりも高い。一方、前立腺は全国値よりも低い（図 6）。

図 5-1 部位別粗罹患率：人口 10 万対（H28 年、表 1-A から作成）



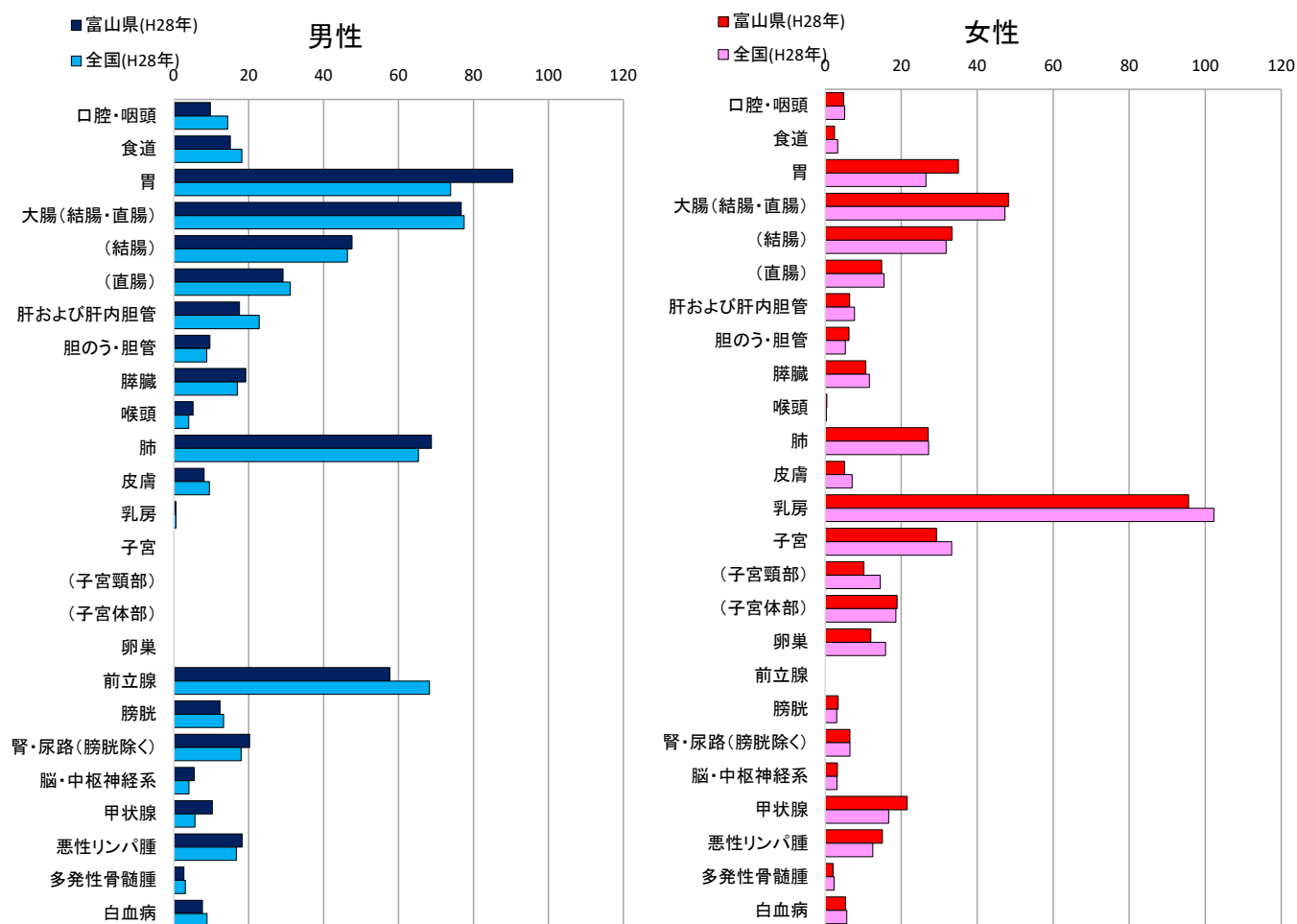
国の値は厚生労働省「平成 28 年 全国がん登録 罹患数・率報告」より引用

図 5-2 部位別粗罹患率：人口 10 万対 (H29 年、表 1-A から作成)



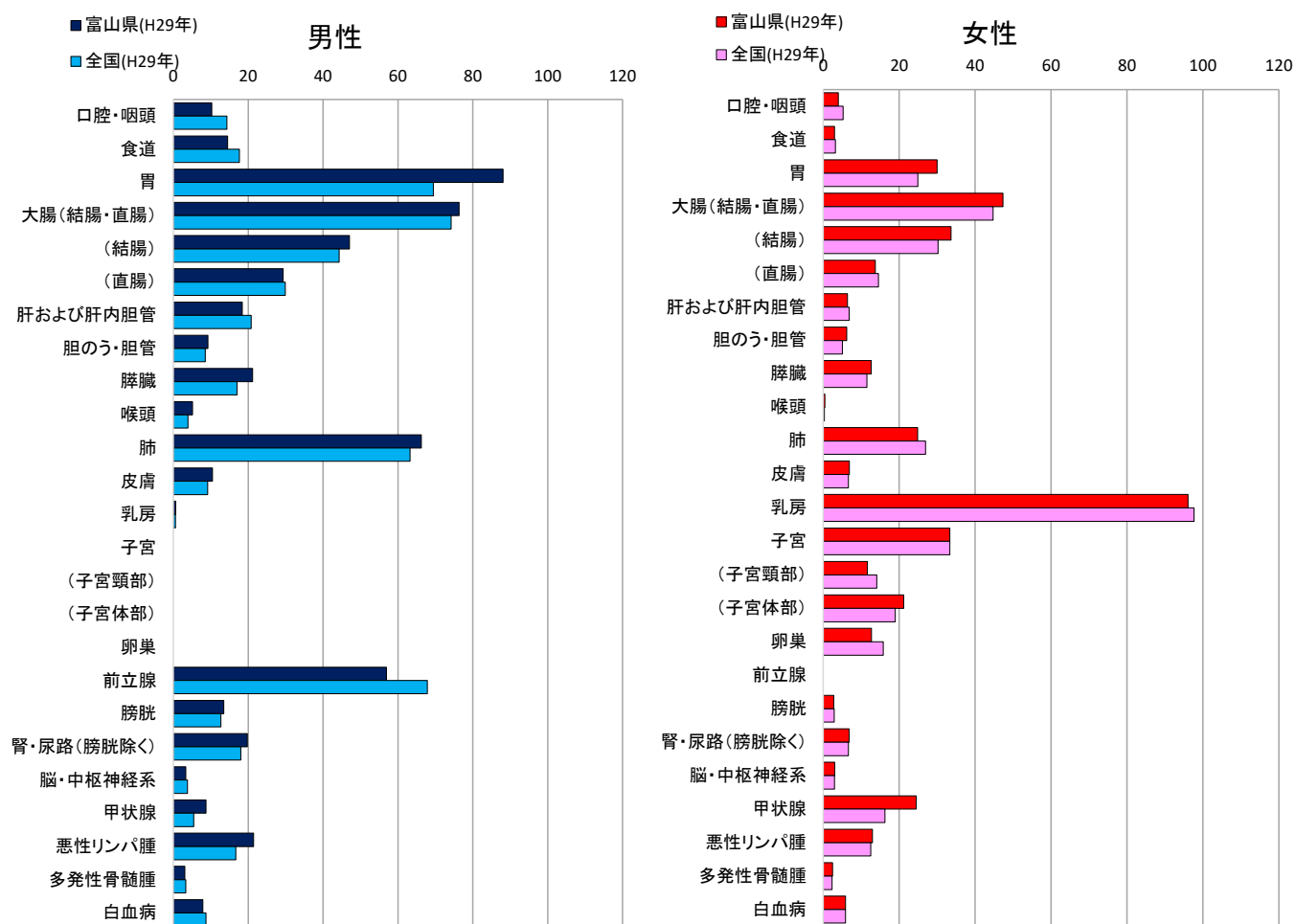
国の値は厚生労働省「平成 29 年 全国がん登録 罹患数・率報告」より引用

図 6-1 部位別年齢調整罹患率：人口 10 万対（H28 年、表 1-A から作成）



国の値は厚生労働省「平成 28 年 全国がん登録 罹患数・率報告」より引用

図 6-2 部位別年齢調整罹患率：人口 10 万対（H29 年、表 1-A から作成）

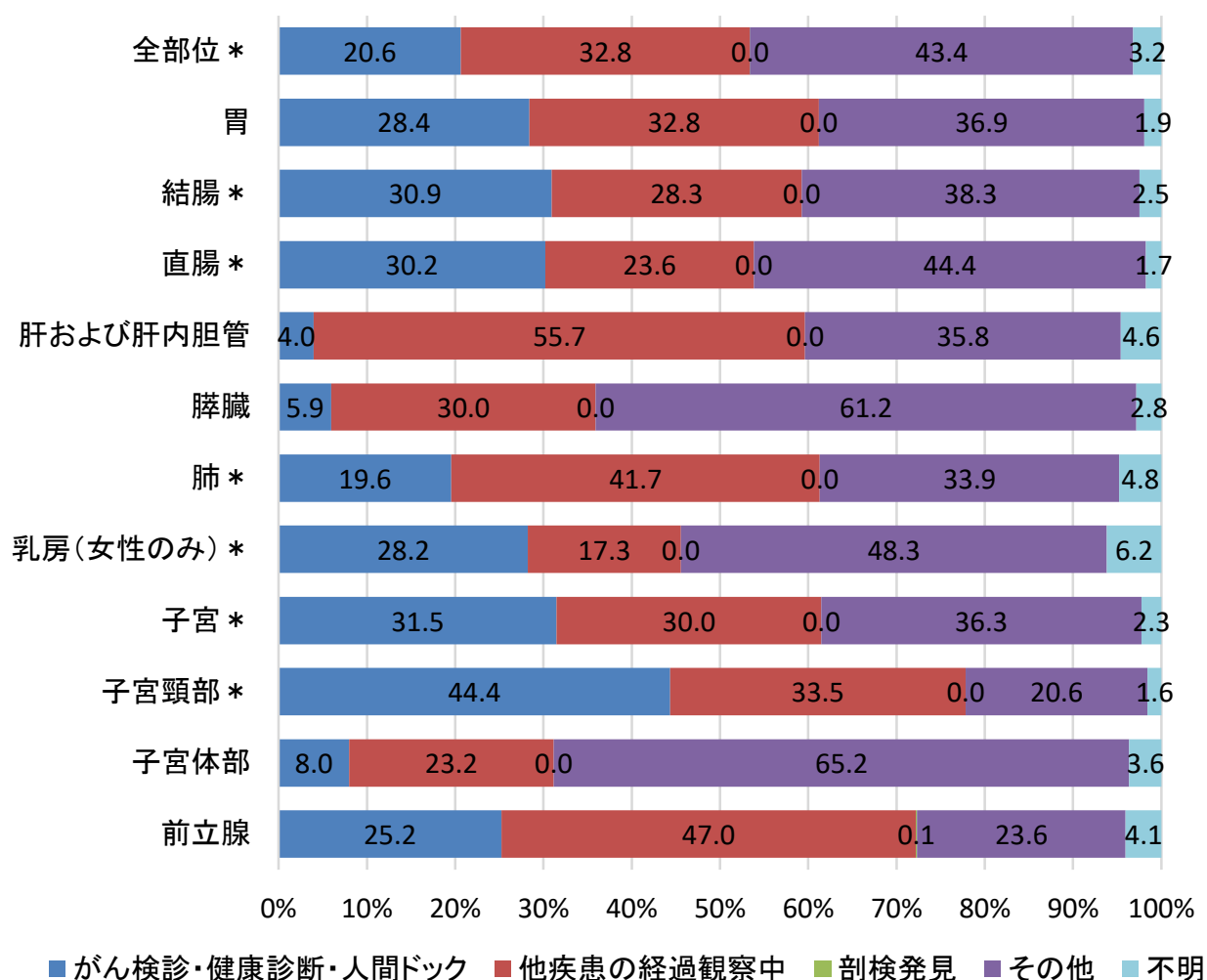


国の値は厚生労働省「平成 29 年 全国がん登録 罹患数・率報告」より引用

5. 発見経緯

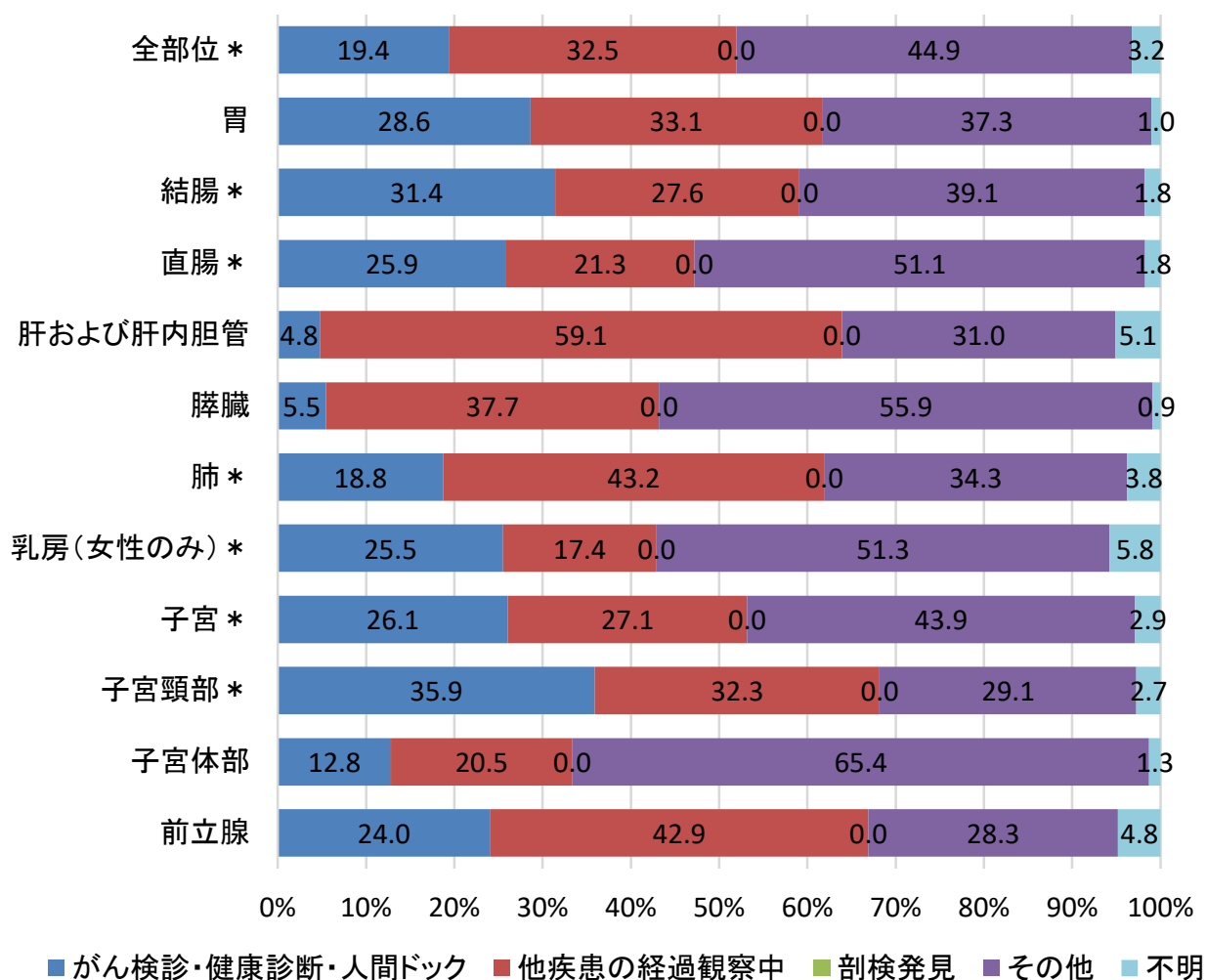
一般にがん検診が実施されている胃、大腸（結腸・直腸）、乳房、子宮頸部において、「がん検診・健康診断・人間ドック」が発見の経緯になったのは、平成28年、29年それぞれ胃28.4%、28.6%、結腸30.9%、31.4%、直腸30.2%、25.9%、乳房28.2%、25.5%、子宮頸部44.4%、35.9%となっている。

図7-1 部位別発見経緯（%）：対象はDCOを除く届出患者（H28年；表4-A、Bから作成）



* 上皮内がんを含む

図 7-2 部位別発見経緯 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (H29 年 ; 表 4-A、B から作成)

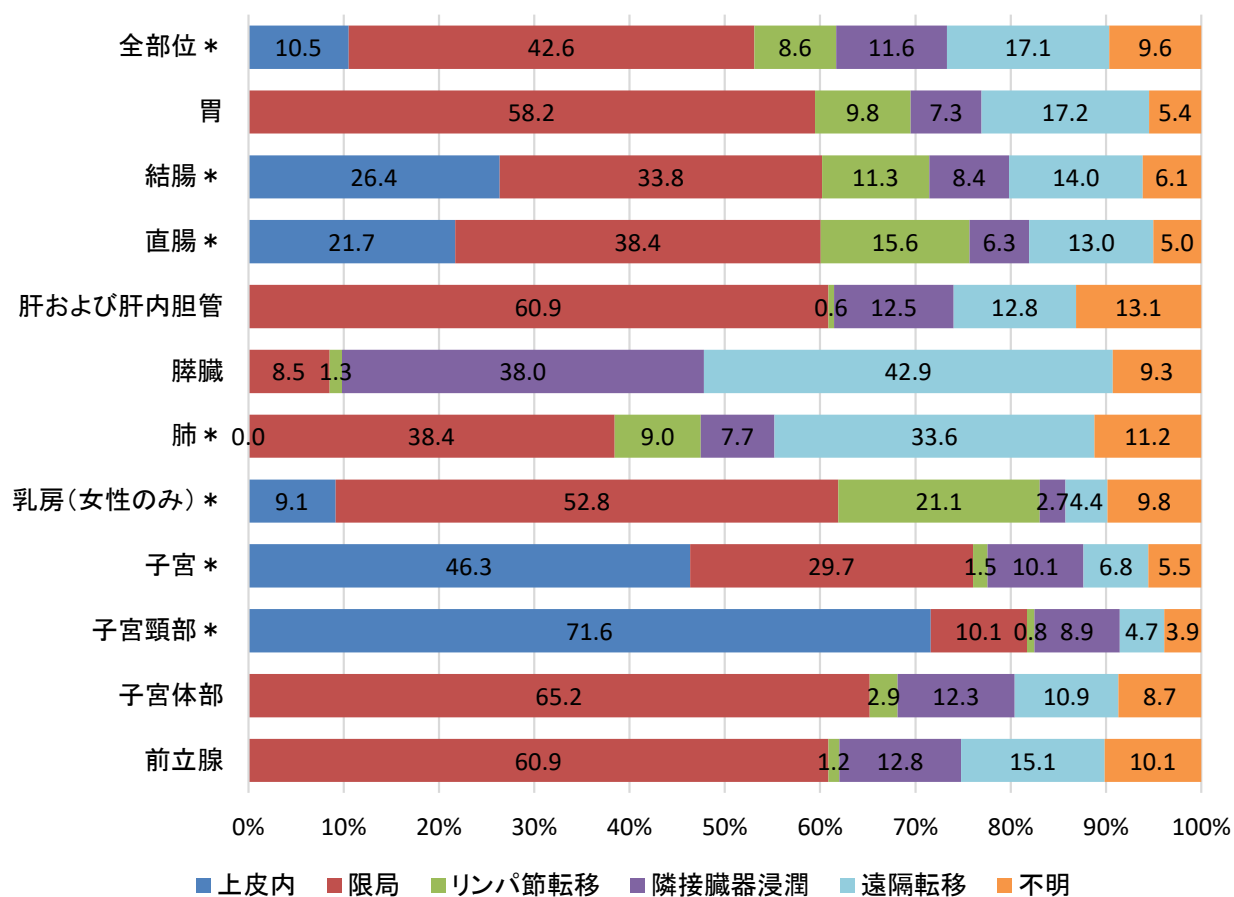


* 上皮内がんを含む

6. 病期

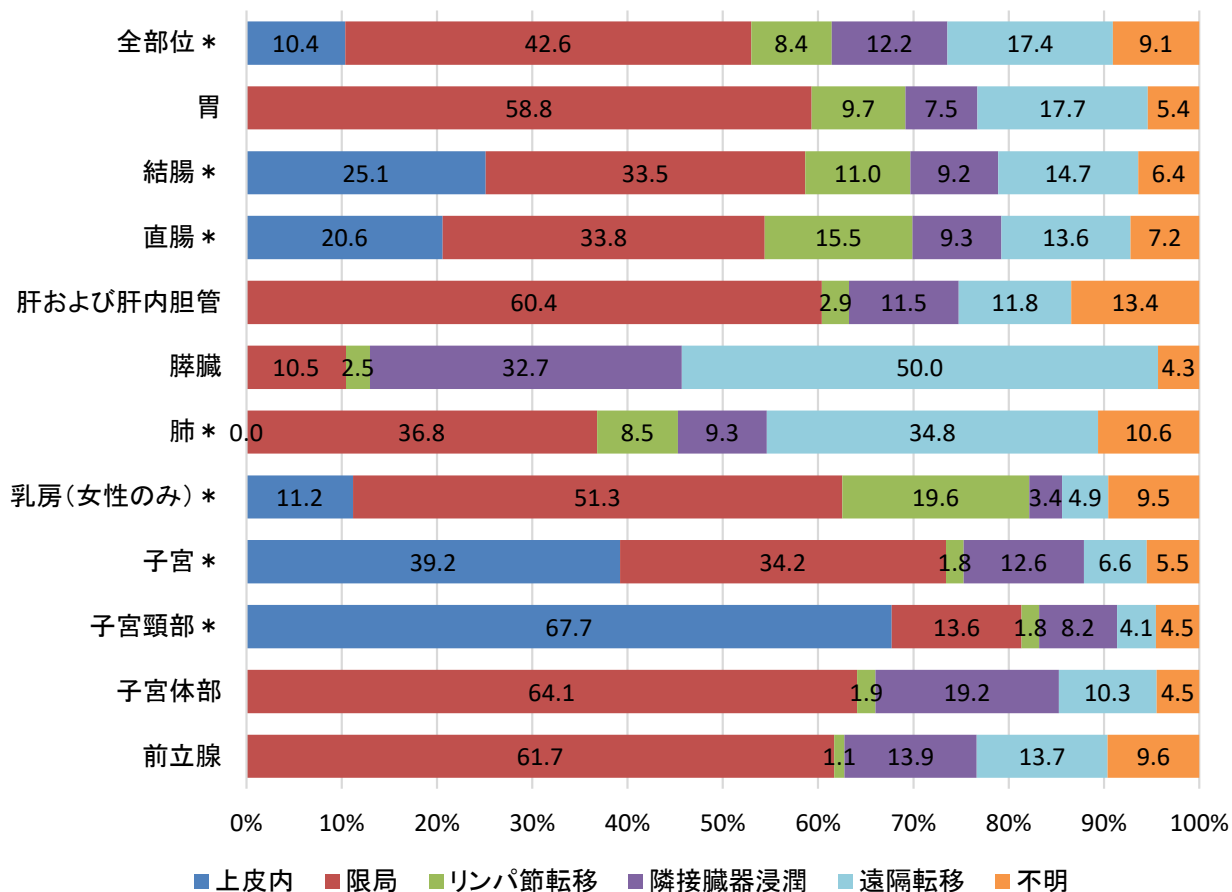
胃、大腸（結腸・直腸）、乳房、子宮頸部、前立腺など、がん検診・健康診断・人間ドックが実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が高い傾向がある。一方、肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、発見時に遠隔転移があった割合が高い。

図 8-1 部分別発見時の病期(%)：対象は DCO を除く届出患者
(H28 年；表 5-1-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

図 8-2 部分別発見時の病期(%)：対象は DCO を除く届出患者
(H29 年；表 5-1-A、B から作成)



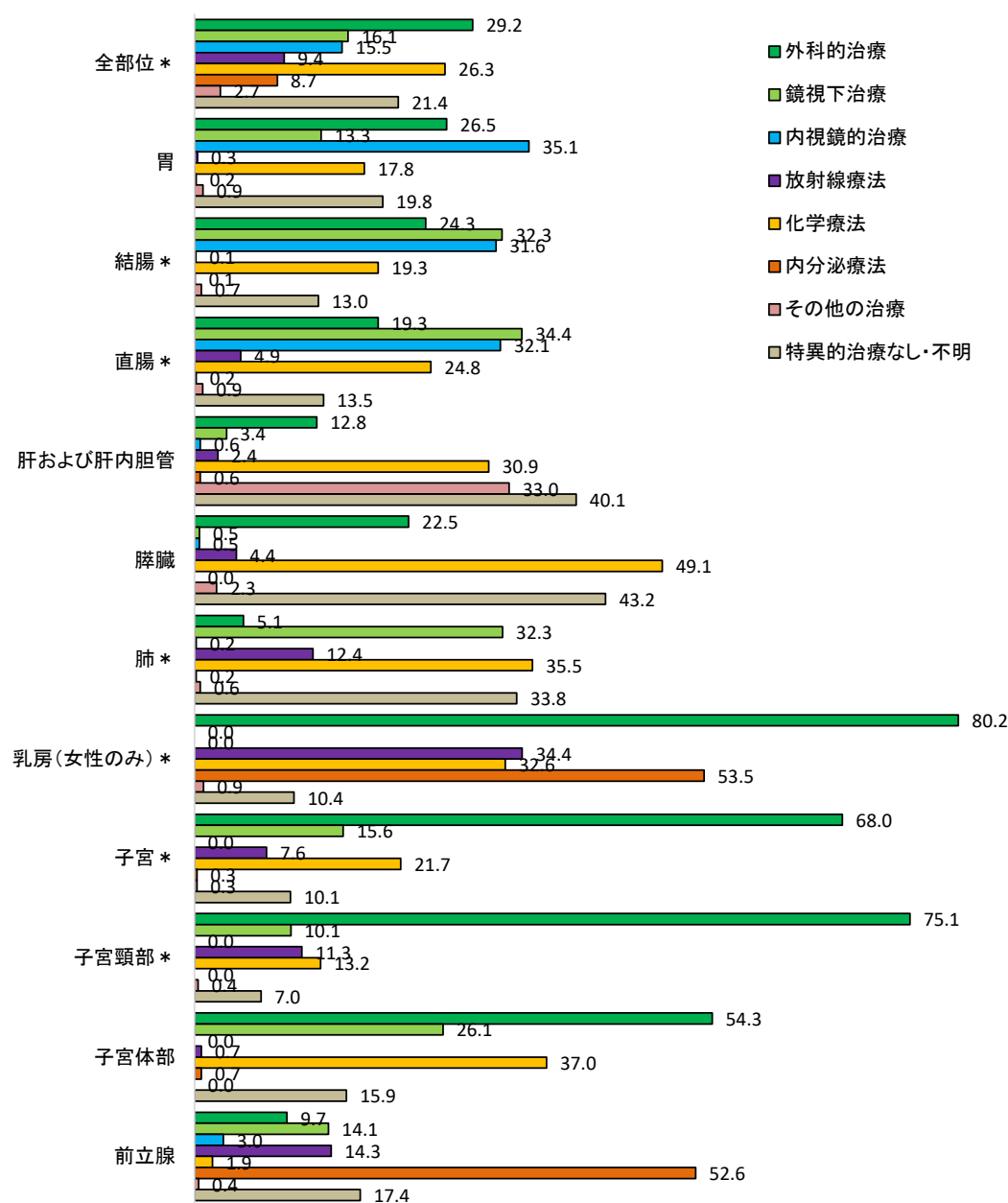
* 上皮内がんを含む

7. 初回治療の方法

初回治療は複数の方法が併用して行われることがある。外科的・鏡視下・内視鏡的治療が多く施術されている部分は、胃、大腸、子宮であり、診断時病気の限局の割合が大きい部位であった。

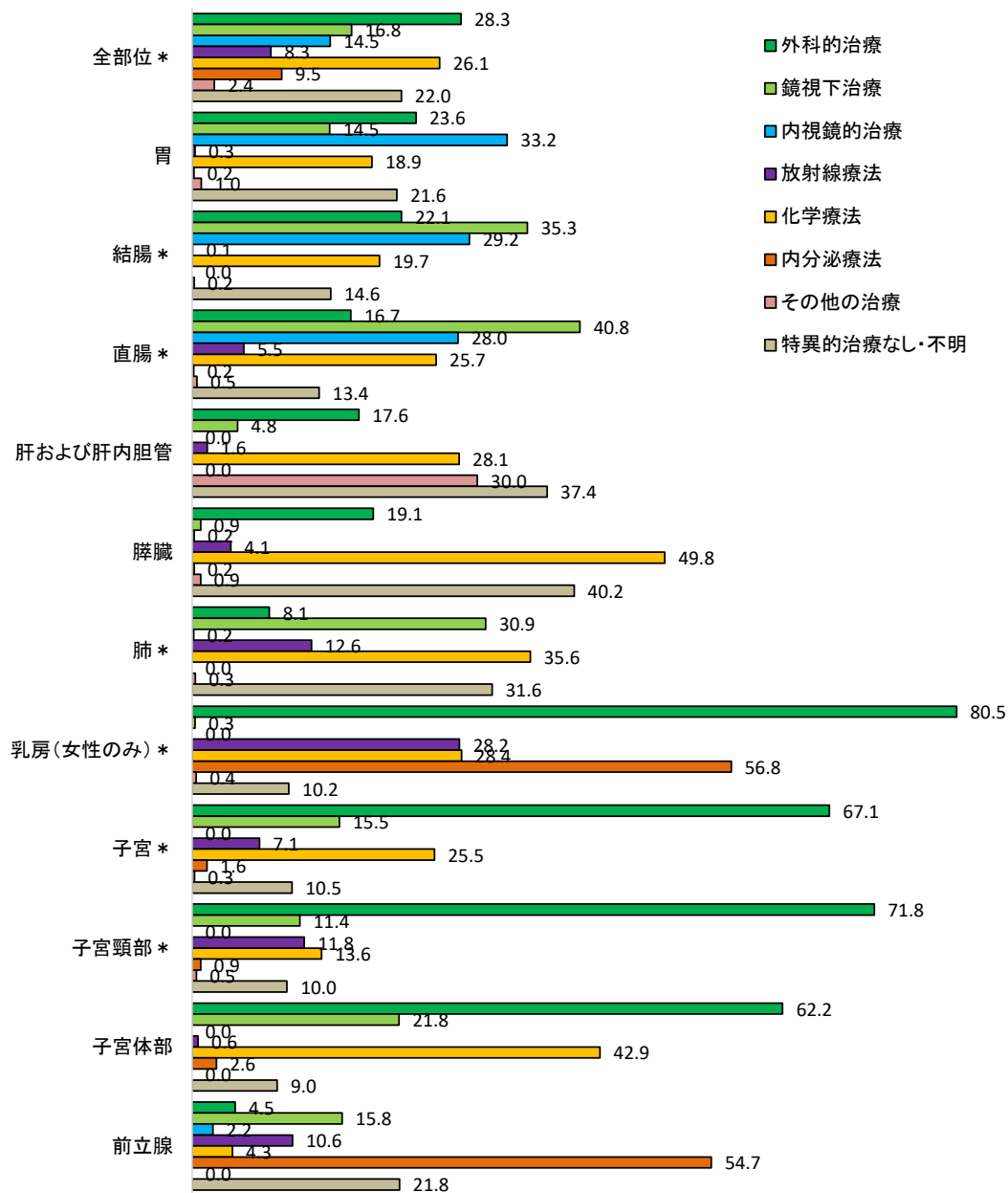
放射線治療は乳房で多く行われている。化学療法は膵臓、肺で多く、内分泌療法は、乳房、前立腺で多く行われている。

図 9-1 初回治療の方法 (%) : 対象は DC0 を除く届出患者
(H28 年 ; 表 6-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

図 9-2 初回治療の方法 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (H29 年 ; 表 6-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む